

# NIHU メタデータマッピング規則

ver. 2.00

2007年 6月 28日

大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

## 目次

### マッピング共通規則

1. 検索用	-----	1
2. 表示用	-----	1

### DC メタデータマッピング規則

基本的考え方	-----	2
Title	-----	2
Creator	-----	2
Subject	-----	2
Description	-----	3
Publisher	-----	3
Contributor	-----	3
Date	-----	3
Type	-----	4
Format	-----	4
Identifier	-----	4
Source	-----	5
Language	-----	5
Relation	-----	5
Coverage	-----	6
Rights	-----	6

### 5W1H メタデータマッピング規則

基本的考え方	-----	7
What	-----	7
Who	-----	7
When	-----	8
Where		
Others		

## マッピング共通規則

本共通規則は、全項目メタデータ、DCメタデータ、5W1Hメタデータに対して適用する。

### 1. 検索用

(1) 原データベースで検索対象としていない項目を、資源共有化システムで検索対象とするかは、その機関（またはデータベースの担当者）に委ねる。

(2) 以下のデータ項目は検索対象としない。

(a) 内容が数字だけの項目

例：法量、数量、ページ番号

但し、西暦等の時間情報、緯度経度等の空間情報は、記述方を定めて検索対象とできるようにする。また、DCメタデータにおいて、資料番号等を、IDによる検索のため、Identifierに対応付ける。

(b) 区分のための単純な文字が入力された項目

例：図面の“有”“無”

(c) 項目の名称文字列

項目名称の入力された項目と入らない項目が用意されている場合は、後者をマッピングする。

### 2. 表示用

(1) 原データベースの表示対象の原則として全てを、表示対象とする。

(2) 表示画面のラベル名称と表示されるデータだけでは、項目の意味が不明となるものは、データ項目名等の文字列を付加する。

例：縦：'法量 'cm'

'差出：' 差出、'充所：' 充所

## DC メタデータマッピング規則

### 基本的考え方

データベースが記述する対象を資源（DC の定義での **resource**）とする。例えば、所蔵資料 DB での資料、文献目録 DB での文献、人物 DB での人物を資源とする。全文データベースのように電子化された対象をリソースと見なすべき場合は、電子情報を資源とする。

### Title

- ・資源の名称。
- ・データベースが記述対象としているものの名称がこれに該当する。
- ・例：所蔵資料 DB の資料名称、文献目録 DB の論文名、人物 DB の人名。
- ・名称に関する異名、統制名、よみ、ローマ字、英語、原語（表記）などの項目も、ここに対応付ける。
- ・叢書名、シリーズ名などは、基本的にここに対応付ける。
- ・出版物の版数がデータ項目として独立している場合、表示用に、名称に連続して対応付ける。
- ・記述対象が論文のときに、その掲載誌や刊・号・ページ番号は **Relation** とする。

### Creator

- ・資源の作成に主たる責任を持った個人・団体等。
- ・例：著者、制作者、工匠、画工
- ・著者が存在しない場合、編者や監修者を記載する。この場合、「著」、「編」などの役割表示を付けることが望ましい。
- ・著者の項目が存在する場合、編者、監修者等は、**Contributor** に対応付ける。

### Subject

- ・資源の内容（**content**）に関する主題。単数あるいは複数の語彙で要約したもの。
- ・例：文献目録 DB における内容を表す分類やキーワード。  
絵画資料 DB における内容に関する分類。
- ・統制語彙や分類体系（コード）に基づいて記述するのが望ましいとされるが、自由語で記述されている項目を対応付けてもよい。
- ・主題としての人名（例えば源氏物語に関する論文における「紫式部」など）はここに記述する。
- ・コンテンツの内容に関する地名、時間（時代）は **Coverage** とされるが、主題と見なさ

れる場合は、ここにも対応付けてよい。

### Description

- ・資源に関する説明や記述。
- ・資源に記述されている事項でもよいし、データベース作成者による記述事項でもよい。
- ・例1：目次、要約、抄録、説明、備考、注記、解題、網文。
- ・例2：本文書出、充所、銘文（資料の記述の一部）
- ・例3：資料の状態の説明、調査方法など
- ・検索の手掛かりとして有用な分類に属する項目は **Subject** か **Type** に対応付ける。
- ・コンテンツの主題に関する項目は **Subject** に対応付ける。

### Publisher

- ・資源を利用可能にしたことに主たる責任をもつ個人・団体
- ・例：発行者、出版社、版元
- ・出版地に関するデータ項目は、**Coverage** ではなく、ここに対応付ける。このとき、表示用には、原 DB のデータ項目名を付す。
- ・電子的資源をリソースとする場合、電子化の対象となった資源に責任を持つ個人・団体ではない（例えば古典本文データベースの **publisher** は岩波書店ではなく、国文学研究資料館である。岩波書店はデータベースのコンテンツについて責任を持たない）。電子化の対象となった資源に責任を持つ個人・団体等は **Source** に記述する。

### Contributor

- ・資源の作成に寄与した個人・団体。
- ・例：編者、監修者、翻訳者、イラストレーター、彫師、摺師、下絵作者
- ・「著」、「編」などの役割表示を付けることが推奨される。
- ・考古遺物の測定者は、報告書の DB であれば **Contributor** であるが、遺物の DB であれば **Description** とする。

### Date

- ・資源に起きた事象に関する時間情報。
- ・例：発行日、制作年代
- ・この時間情報を資源のコンテンツの内容に関するものを混同してはならない。コンテンツの内容に関する時間情報は **Coverage** に対応付ける。
- ・電子的資源をリソースとする場合、電子化の対象となった資源の作成等に関する時間情報は **Source** に記述する。
- ・標準形式（時空間システムとのインタフェース）では、YYYY および YYYY-MM-DD の

形式で書く。ISO 8601 [W3C テクニカルノート <http://www.w3.org/TR/Notedatetime> の (ISO8601 に基づく) 日付と時刻]が定義する形式に基づいて記述する。たとえば、この形式では 1994 年 11 月 5 日は 1994-11-05 と表される。

・和暦や時代表記等による表記も許される。標準形式では、暦を識別するための表記を付けなければならない。

## Type

・資源の性質や種類。

・例：小説／詩／エッセイ

文書／典籍／記録類、写本／刊本 等の分類

画像／音声／動画像

・資源自身の種別もここに対応付ける。

例：石器分類、遺構種別、楽器種、実物／模造の区分、人物 DB での職種

・資源の内容の主題に関する分類は **Subject** に対応付ける。

・資源の性質や種類か主題かの区分が不明瞭なものは、データベースの担当者の解釈に任せる。

・資源の物理形式またはデジタル化形式は **Format** に対応付ける。

・当該 DB が扱うメディア等に関する分類を、別途定める統制語から、サブエレメントに固定的に割り当ててもよい。

## Format

・資源の物理形式またはデジタル化形式。

・例：法量

大判／細判の判形、冊子／巻子の形態

員数、ページ数

・資源の材質は、ここに対応付ける。

・立体物の形状を **Format** とするか **Description** とするかは、データベースの担当者の解釈に任せる。

・資料の欠損等の状態は、**Description** とする。

・電子的資源に関し、ソフトウェア、ハードウェアについてここに記述する。

## Identifier

・資源または資源を DB 化した記述単位の識別子。一意に識別できる文字列あるいは番号であることが望ましい。

・例：資料番号、文献番号

・URN あるいは URL の利用が推奨されるが、データベース内のキーに相当する一意識別

子でも構わない。

- ・ 電子的資源をリソースとする場合に、電子化の対象となった資源に関する一意識別子（例えば ISBN）ではない。ただし、流用しても構わない。

## Source

- ・ 資源が作り出される元になった資源。
- ・ 例：ある原稿に関する草稿
- ・ 版を重ねた出版物の初版は **Relation** である。
- ・ **Source** とするか **Relation** とするかどちらのどちらの解釈もできるものは、担当者の判断に委ねる。  
例：出典、複製品の場合の原品
- ・ 元になった資源への参照を記述することが本来であるが、その名称を用いてもよい。  
[電子的資源の場合]
- ・ 情報資源が作り出される元になった資源（例えば本、論文、絵画、発掘品など）に関する情報。
- ・ 例えば、資源の名称（作品名など）、作者、日付（作成、出版、寄贈、購入、製本、その他管理的な時間情報）、形式（素材、大きさなど）、識別子（ISBN など）、言語などを記述する。
- ・ もし当該情報資源を作り出す元になった情報資源についての情報自身（資源の履歴情報など）が重要である（コンテンツそのものとなりうる）場合、これらの情報は **Description**、**Relation**、**Coverage** に記述すべきである。この場合、**Source** の内容の一部が別のエレメントと重複しても構わない。"

## Language

- ・ 資源の内容を記述している言語。
- ・ 複数の言語が用いられたリソースであれば、用いられている種類の言語を繰返して記述する。
- ・ ISO639-2 による言語コードを使用することが推奨される。
- ・ 原データベースに該当する項目がなく、資源の記述言語が日本語の場合、ja を固定的に割り当ててもよい。

## Relation

- ・ 資源に関連する他の資源
- ・ 関連する資源への参照を記述することが本来であるが、関連資源の名称でもよい。
- ・ 例：関連資料へのリンク情報、遺跡 DB での調査報告書名  
異版の関係（、複製品の場合の原品、出典）

## Coverage

- ・資源のコンテンツが対象としている時間的・空間的な範囲。
- ・時間情報と空間情報は分けて対応付ける。

### <時間情報>

- ・資源に記述されている時間的情報はここに対応させる。
- ・例：文書 DB の日付
- ・資源の作成や公開に関する日付は **Date** に対応させる。
- ・資源に記述されている時間的情報が、その資源の作成等の時間情報でもある場合は、**Date** にも対応させる。

### <空間情報>

- ・例：論文 DB の対象地域、錦絵 DB での描かれている地名
- ・資源が製作あるいは使用された地理的情報もここに記述する。
- ・例：製作地、使用地、所在地、収集地

## Rights

- ・資源の権利に関する情報。
- ・資料の所蔵者をここに対応付けることができる。
- ・所蔵資料 DB おいて、“国立歴史民俗博物館所蔵”のように固定値を割り当てることができる。



## 5W1H メタデータマッピング規則

### 基本的考え方

5W1H メタデータは、全項目検索に対して、検索の対象を絞る手段を与えることから、このメタデータの各項目には、範疇の異なる語ができるだけ混在しないよう原データベースのデータ項目をマッピングする。

What, Who, When, Where には語で記述されたデータ項目を対応付けることを原則とし、文で記述されたデータ項目は Others に対応付ける。

マッピング共通規則に記した非検索対象項目を除き、原データベースの全てのデータ項目を 5W1H メタデータのいずれかの項目にマッピングする。

### What

- ・物や事などの名称。
- ・DC の Title にマッピングされるデータ項目の多くはこれに該当する。但し、人物 DB の人物名は、DC の Title であっても Who に対応付ける。
- ・文献目録 DB 等において Title となる文献名や書名には、人名、地名、時代名が記載されることがあるため Others に対応付ける。
- ・主題や種別に関するデータ項目で、物や事を表すと考えられるものはここに対応付ける。

### Who

- ・人名や機関の名称。
- ・DC の Creator、Contributor、Publisher にマッピングされるデータ項目は、これに該当する。
- ・文書に関する DB の差出、宛所はここに対応付ける。
- ・DC の Source や Relation にマッピングされる人名や機関名称もここに対応付ける。

### When

- ・時間に関する情報。
- ・DC の Date および Coverage の時間情報にマッピングされるデータ項目は、これに該当する。
- ・DC の Source や Relation にマッピングされる時間情報もここに対応付ける。

### Where

- ・場所に関する情報。
- ・Coverage の空間情報にマッピングされるデータ項目は、これに該当する。

- ・実在しない架空の地名が記載されたデータ項目でもよい。
- ・DCの **Source** や **Relation** にマッピングされる空間情報もここに対応付ける。

#### Others

- ・その他の情報。
- ・備考に関するデータ項目は、ここに対応付ける。
- ・文で記述されたデータ項目を対応付ける。

### 資料3 時空間情報メタデータ定義

#### 1. 名前空間定義

```
xmlns:ts="http://www.nihu.jp/ResourceSharing/GeoTemporal"
```

#### 2. Coverage 内の記述

```
ts:Container+          // 時空間記述単位
-- ts>Date             // 時間データ
  -- ts:From
    -- ts:DescDate? // 記述時間（和暦など）
      -- ts.description* //元データの記載時間であるが、原則として暦日を記載
        DataType = #PCDATA
      -- ts.era*        // ~時代・~時代前期・~世紀など暦日以外の時間記述
        DataType = #PCDATA
      -- ts:regionalCal? // 区分された時間記述（和暦など）
        Attribute = ts:desc_format [JP] // 記述形式
        // JP 和暦（デフォルト）
      -- ts:genko? // 元号
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
        // accurate 正確（デフォルト）
        // maybe ・・・力
        // about ・・・頃
      -- ts:year? // 年
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
        // accurate 正確（デフォルト）
        // maybe ・・・力
        // about ・・・頃
      -- ts:month? // 月
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
        // accurate 正確（デフォルト）
        // maybe ・・・力
        // about ・・・頃
      -- ts:day? // 日
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
        // accurate 正確（デフォルト）
        // maybe ・・・力
        // about ・・・頃
      -- ts:westernCal? // 西洋（太陽）歴は yyyy-mm-ddThh:mm, ユリウス通日の場合は実数型
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:desc_format [JC, JD, GC] // 記述形式
        // JC ユリウス歴
        // JD ユリウス通日
        // GC グレゴリアン歴
        Attribute = ts:norm_format [ISO, JIS, W3C] // 正規化形式
        Attribute = ts:timeZone CDATE // 国際標準子午線からの時差
      -- ts:NormDate // 正規化時間 西洋（太陽）歴は yyyy-mm-ddThh:mm, ユリウス通日の場合は実数型
        DataType = #PCDATA
        Attribute = ts:norm_format [ISO, JIS, W3C] // 正規化形式
        // JC ユリウス歴
        // JD ユリウス通日
        // GC グレゴリアン歴（デフォルト）
```

```

Attribute = ts:norm_format [ISO, JIS, W3C] // 正規化形式
Attribute = ts:timeZone CDATA // 国際標準子午線からの時差
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:To
-- ts:DescDate? // 記述時間 (和暦など)
-- ts:description* //元データの記載時間であるが、原則として暦日を記載
DataType = #PCDATA
-- ts:era* // ~時代・~時代前期・~世紀など暦日以外の時間記述
DataType = #PCDATA
-- ts:regionalCal? // 区分された時間記述 (和暦など)
Attribute = ts:desc_format [JP] // 記述形式
// JP 和暦 (デフォルト)
-- ts:gengo? // 元号
DataType = # PCDATA
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:year? // 年
DataType = # PCDATA
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:month? // 月
DataType = # PCDATA
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:day? // 日
DataType = # PCDATA
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:westernCal? // 西洋 (太陽) 歴は yyyy-mm-ddThh:mm, ユリウス通日の場合は実数型
DataType = #PCDATA
Attribute = ts:desc_format [JC, JD, GC] // 記述形式
// JC ユリウス歴
// JD ユリウス通日
// GC グレゴリアン歴
Attribute = ts:timeZone CDATA // 国際標準子午線からの時差
Attribute = ts:norm_format [ISO, JIS, W3C] // 正規化形式
-- ts:NormDate // 正規化時間 西洋 (太陽) 歴は yyyy-mm-ddThh:mm, ユリウス通日の場合は実数型
DataType = #PCDATA
Attribute = ts:desc_format [JC, JD, GC] // 記述形式
// JC ユリウス歴
// JD ユリウス通日
// GC グレゴリアン歴 (デフォルト)
Attribute = ts:norm_format [ISO, JIS, W3C] // 正規化形式
Attribute = ts:timeZone CDATA // 国際標準子午線からの時差
Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
// accurate 正確 (デフォルト)
// maybe . . .力
// about . . .頃
-- ts:Place // 位置データ
-- ts:DescPlace? // 記述位置 (住所など)

```

```

-- ts:description+
  DataType = #PCDATA // 元データの記載地名
  Attribute = ts:desc_format [LL, AD, ZIP, NM, TEL, CD] // 記述形式
                // LL 緯度および経度 この場合“緯度,経度”で記述する
                // AD 住所
                // ZIP ZIPコード
                // NM 地名
                // TEL 電話番号
                // CD コード

-- ts:address* // 区分された地名記述 (住所)
  -- ts:nation? // 国家・地域名
    DataType = # PCDATA
    Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
                // accurate 正確 (デフォルト)
                // maybe . . .力
                // about . . .頃

  -- ts:prefecture? // 県・旧国名
    DataType = # PCDATA
    Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
                // accurate 正確 (デフォルト)
                // maybe . . .力
                // about . . .頃

  -- ts:county? // 郡・市
    DataType = # PCDATA
    Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
                // accurate 正確 (デフォルト)
                // maybe . . .力
                // about . . .頃

  -- ts:town? // 町名以下
    DataType = # PCDATA
    Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]
                // accurate 正確 (デフォルト)
                // maybe . . .力
                // about . . .頃

-- ts:NormPlace // 正規化位置
  -- ts:description+ //地名, ZIPコード, 電話番号, コード
    DataType = #PCDATA
    Attribute = ts:desc_format [LL, ZIP, NM, TEL, CD] // 記述形式
                // LL 緯度, 経度 この場合“緯度,経度”で記述する
                // ZIP ZIPコード
                // NM 地名
                // TEL 電話番号
                // CD コード

  -- ts:address? // 区分された地名記述 (住所)
    -- ts:nation? // 国家・地域名
      DataType = # PCDATA

    -- ts:prefecture? // 県・旧国名
      DataType = # PCDATA
      Attribute = ts:desc_precise [accurate, about, maybe]

    -- ts:county? // 郡・市
      DataType = # PCDATA

    -- ts:town? // 町名以下
      DataType = # PCDATA

  -- ts:coordinate
    Attribute = ts:CoordinateSystem [ArcGISに準拠] // 座標系

    -- ts:NWpoint // 矩形北西点
      -- ts:x // 緯度あるいはX座標

```



- ・数字は半角とする。
- ・値としての“年”，“月”，“日”は省略する。
- ・正月は月を“1”とする。
- ・元年は年を“1”とする。
- ・閏は数字の直前とする。

同じ内容を CSV で記述する場合，区切りは全角“/”を用い “/元号/年/月/日/”とする。

例えば “/顕宗/2/10/8/” とする。このとき

- ・区切りは省略しない。
- ・数字は半角とする。
- ・値としての“年”，“月”，“日”は省略する。
- ・正月は月を“1”とする。
- ・元年は年を“1”とする。
- ・閏は区切りの直後とする。
- ・“××時代”，“××時代前期”，“××世紀”などは<ts:Date><ts:DescDate><ts:era>に記述する。

西暦年の記述は yyyy-mm-ddThh:mm とする。ユリウス通日の場合は整数型とする。このとき

- ・数字は半角とする。
- ・時間は日本時間とし，必要であれば国際標準子午線からの時差を属性 ts:timeZone に記載する。
- ・区切りは省略できる。例えば 1999 年なら“1999”のようにする。

その他として，

- ・“頃”，“カ”など時間が曖昧なことを表す場合は，元号，数字の後ろに全角“?”を付ける。

例えば上記の例で日が曖昧な場合，CSV では“/顕宗/2/10/8?/”となる。XML では，

<ts:day desc\_precise="about">8</ts:day>となる。“1900 年頃”の場合，CSV では“1900?”となる。

XML では<ts:westernCal desc\_precise="about">1900</ts:westernCal>となる。

- ・不明な部分は省略する。CSV の場合，見かけ上は全角“/”が連続する。例えば上記の例で月が不明の場合は，“/顕宗/2//8/”となる。XML の場合，対応するエレメントは省略される。西暦年の場合は区切り子を省略できる。例えば 1999 年なら“1999”のようにする。
- ・“××年間”については，元号の直後に“?”を付与し，それ以下を省略する。例えば “/顕宗?////”とする。
- ・“××時代”あるいは“××時代前期”に対応する SCV 項目を定義する。

#### (4) 正規化された時間記述形式への変換

- ・開始時間と終了時間を，それぞれ yyyy-mm-ddThh:mm で記述する。デフォルトはグレゴリオ歴とする。
- ・時間は日本時間とし，必要であれば国際標準子午線からの時差を属性 ts:timeZone に記載する。

#### (5) 区分された位置記述形式への変換

例：安芸国高田郡三田郷佐々井村

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:description>の値は，記載取り“安芸国高田郡三田郷佐々井村”である。

ここで，住所あるから属性 ts:desc\_format の値は“AD”である。緯度・経度の場合はカンマ，“で“緯度, 経度”とする。この場合，属性 ts:desc\_format の値は“LL”である。

- ・区分された位置記述<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address>は以下の通りである。

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address><ts:nation>の値は，“日本”である。

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address><ts:prefecture>の値は，“安芸国”である。

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address><ts:county>の値は、“高田郡”である。

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address><ts:town>の値は、“三田郷佐々井村”である。

同じ内容を CSV で記述する場合、区切りは全角“/”を用い “/国・地域名/県・旧国名/郡・市名/町名以下”とする。例えば“/日本/安芸国/高田郡/三田郷佐々井村/”とする。このとき

- ・区切りは省略しない。

- ・“カ”など位置が曖昧なことを表す場合は、国名などの後ろに全角“?”を付ける。

例えば上記の例で町名以下が曖昧な場合、CSV では“/日本/安芸国/高田郡/三田郷佐々村?/”となる。XML では、

<ts:Place><ts:DescPlace><ts:address><ts:town precise="about">佐々井村</ts:town>”となる。

- ・不明な部分は省略する。CSV の場合、見かけ上は全角“/”が連続する。例えば上記の例で旧国名が不明の場合、CSV では“/日本//高田郡/三田郷佐々井村”となる。XML の場合、対応するエレメントは省略される。

※異なる（記述）地名が複数ある場合（同じ位置を指す場合はこの限りではない）、それぞれを

<ts:Place><ts:DescPlace>に割り当てる。このとき、対応する地名について同じ<ts:Container>

配下の<ts>Date>に割り当てる。つまり（記述）地名の数だけ<ts:Container>は繰り返す。もし複数

の（記述）地名に対する時間記述が一つの場合、各<ts>Date>には同じ時間記述を割り当てる。

※同じ場所を指す旧地名が複数あるような場合、（記述）地名については

<ts:Place><ts:DescPlace>

<ts:description>を繰り返す。

※（記述）時間が複数ある場合も上の記述法に準ずる。

#### (6) 正規化された位置記述形式への変換

- ・正規化された地名とは、文字等を正規化した住所、（旧）地名等である。特に正規化する必要がない場合は<ts:Place><ts:DescPlace><ts:description>と同じになる。